

百千鳥茶会

Fantasma

Fantasma—奇妙な、現実離れた、素晴らしい。
百千鳥の新しいお茶会は、五感をうるおし、「感じること」を提案します。

京都で『お茶のある暮らし』を営む「陶々舎」の天江大陸さんを水先案内人に、不思議な気配に満ちたお茶の世界へご案内いたします。心を澄ませて自分の感覚に深く向き合う、茶の湯の魅力をのぞいてみませんか？

- 会場 (Place) : 大濠公園 日本庭園
〒810-0051 福岡市中央区大濠公園 1-7
- 開催日 (Event Schedule)
2017年6月24日(土) / 24th, June
1部: 花×茶 (日本語解説)
10:30~12:30 (定員 12名)
2部: 花×茶 (英語解説)
13:30~15:30 (定員 12名)
3部: 酒×茶 (日本語解説)
16:00~18:00 (定員 10名)
- 参加費 (Participation Fee)
1・2部: 前売 3,500円
(当日 4,000円)
3部: 前売 5,000円 / *20歳以上の方
(当日 6,000円)

▼お申込み方法 (How to apply)

Eメールにて
momochidori.npo+tea@gmail.com

1. 氏名・ふりがな (Name)
2. 年齢 (Age)
3. メールアドレス (Email address)
4. 電話番号 (Phone number)
5. ご希望のイベント名・時間帯
(Title name of event and time session you wish to attend)
をご記入のうえお申し込みください。



1・2部〈花×茶/Flower × Tea〉

花は野にあるように。季節のお花と向き合うひとときをすごし、心をほぐしてから、のびやかな気持ちでお茶会を楽しんでいただきたいと思えます。

- 1部: 日本語解説
- 2部: 英語解説
- Part1: Explanation in Japanese
- Part2: Explanation in English

3部〈酒×茶/Japanese Sakex Tea〉

一杯のお茶を最高においしく楽しんでいただくために、本格的な茶事では懐石料理とお酒のあとに和菓子とお抹茶をお出しします。「酒×茶」では、この茶事の流れの中から「千鳥盃(ちどりさかずき)」と呼ばれる部分を体験していただきます。亭主と日本酒を酌み交わして心通わせ、季節の酒肴をつまんでからのお茶。忘れられない一時をどうぞ。

- 3部: 日本語解説
- Part3: Explanation in Japanese

*すべての部、日本、外国の方問わずご参加いただけます。

百千鳥のお茶会は、はじめての方にも「お茶っておもしろい!」と感じていただくことを目標にしています。

百千鳥のお茶会は、お茶をまったく知らない人でも楽しんでいただけるお茶会です。会の中でお茶の飲み方などはご説明しますし、たとえ間違えても気にする必要はありません。手ぶらできていただいても、カジュアルな服装でも大丈夫です。お茶が大事にしている考え方や、ものを大事に扱うためのコツなど、少しずつお話できればと思います。



講師: 天江大陸 (茶数奇/「陶々舎」主催)

1988年生まれ。外国生まれ、外国育ちの日本人。韓国、ロシア、シリア、ウクライナなどの暮らしを経験したのち、京都にて建築を学ぶ。茶数奇(好き)3人で暮らす日本家屋に「陶々舎(とうとうしゃ)」を主催し、「お茶がある暮らし」を提案。建築の知識を活かし自分で手を入れながら日本家屋を生かす暮らしを満喫中。

Lecturer: Mr. Diriku Amae (Tea practitioner/sponsor of "Totousha")

Mr. Dairiku Amae born in 1988. Born abroad, a Japanese nurtured abroad. After experiencing living such as Korea, Russia, Syria, Ukraine, studying architecture in Kyoto. He organizes "Totousha" in a Japanese house where three tea lovers live, and propose "Living with tea". He is fully enjoying his life to make use of Japanese houses while taking care of his own knowledge of architecture. He enjoys living to keep Japanese house while taking care of his own knowledge of architecture and maintain by himself.